

共生・共感・共創アイランド九州

九州将来ビジョン2030と 「幸せコミュニティ」指標

～成長と心の豊かさをともに～



九州将来ビジョン2030と 「幸せコミュニティ」指標

～成長と心の豊かさをともに～

2021年4月、九州経済連合会は創立60周年を迎えました。その大きな節目の年に、麻生前会長の下、金子前副会長、石坂理事、谷口検討WG座長、そしてWGメンバーはじめご関係各位のご協力により、2030年のありたい姿を描き、その実現へのアクションプランを示す「九州将来ビジョン2030」を取りまとめ、同年5月、公表いたしました。『共生・共感・共創アイランド九州～成長と心の豊かさをともに～』がビジョンのコンセプトです。「新たな時代の成長エンジン」「心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ」「自立型広域連携アイランド」の3つのありたい姿を軸に、SDGsの理念の下、新たな価値創出を促す「10の課題」を掲げています。

麻生前会長が指摘されたように、経済成長の目標を定め、競争力を追求していくことはもちろん大切です。純粋に「九州に住んでいる人って幸せそうだな」と思ってもらえるコミュニティを育み、豊かな社会生活を実現していくことが、これから地域に人を呼び込んでいく上では重要です。

そこで、今年のビジョン公表時にはお示ししていなかった「幸せコミュニティ」指標を検討し、このたび公表させていただくことといたしました。

「幸福」の概念は人により様々なものがあります。ある人にとって幸せなことが、必ずしも他の人から見て幸せであるとは限りません。しかしながら九州に暮らす人々は、主観的には概して「幸せ」だと感じている方が多いようです。一方で、「幸福感」の醸成につながるといわれている経済・社会・生活等の指標による客観的な評価が存在するのも事実で、その指標は、九州では必ずしも高いとはいえません。

私たちは、理想的な姿として、昨年公表した「九州将来ビジョン2030」に加え、この主観的・客観的な「幸せ」のギャップを埋める仕組みと捉えるべく、今回公表した「幸せコミュニティ」指標をビジョン実現の成果指標としても位置付けられないかと考えました。

九州の恵まれた環境・好条件を活かして、「九州将来ビジョン2030」と「幸せコミュニティ」指標に基づき、新しい動き、良い成功事例をつくって、他の地域、他の産業でも導入されていく流れをつくり、日本の競争力復活を目指す経済人の一人として、九経連のミッションである「九州から日本を動かす」の実行、実現につなげてまいります。

九州には「まとまりの良さ」という強みがあります。産学官民がワンチームとなって、後に「あの時に潮目が変わった」と評価されるような動きを起こしていければと思います。

地域が競争力とともに「幸福感」「幸福度」を高め、それぞれの立場から、次世代が明るい可能性を感じるビジョンを持ち、発信していただきたいと思っています。

今年のビジョンに続き、この「幸せコミュニティ」指標がローカルアドバンテージを引き出す戦略や、将来像を描く上での議論の良き材料となれば幸いです。



一般社団法人九州経済連合会
会長 倉富 純男

I.九州将来ビジョン2030

九州経済連合会は2021年5月、創立60周年の節目に「九州将来ビジョン2030」を策定しました。『共生・共感・共創アイランド九州～成長と心の豊かさをともに～』がビジョンのコンセプトで、九州にいれば自分の思いを実現できる、やってみようという雰囲気をつくる、九州をそんな場にすることが「心の豊かさ」につながり、結果として九州の持続的な「経済成長」にもつながると考えております。

ありたい姿

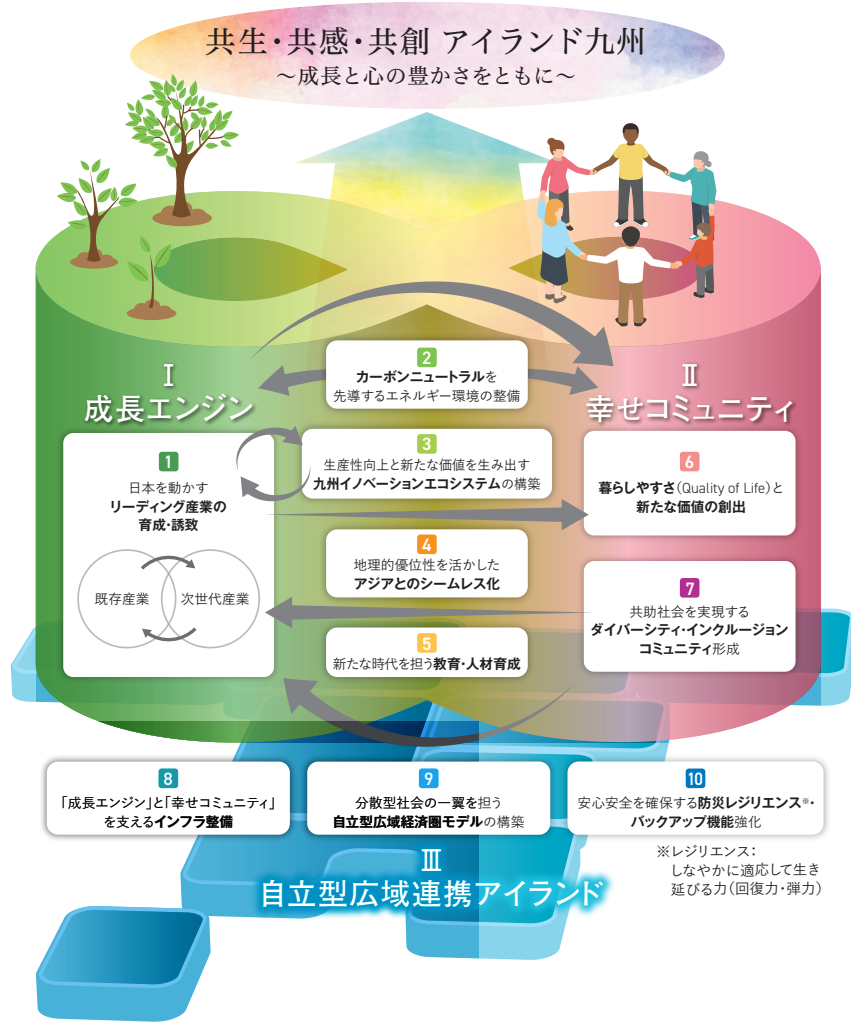
I 新たな時代の成長エンジン
～「九州から日本を動かす」気概と情熱で
地域経済社会の先進モデルを確立～

II 心の豊かさを成長につなぐ 幸せコミュニティ
～多様な人材を活かし、新たな価値創出を促す～

III 自立型広域連携アイランド
～九州のポテンシャルを活かし、
強固な連携で成長と心の豊かさを支える～

●基本目標 (Key Goal Indicator)

国の想定を上回る経済成長(全国1.3%、九州2.1%)を達成し、2030年の1人当たりGRP『500万円』を目指す。(2018年の九州の1人当たりGRP360万円。現状は、ブロック別で全国最下位の低水準。)



II.心の豊かさを成長につなぐ「幸せコミュニティ」の指標化

●「幸せコミュニティ」指標の意義

九州の現状を克服し、大きな時流の変化をチャンスに変え、ポテンシャルを活かし、純粋に「九州に住んでいる人って幸せうだな」と思ってもらえるコミュニティを育み、豊かな社会、且つ、地域に人を呼び込むことができる社会の実現に向かって進んでいるかを可視化するものである。

●九州の現状

脅威	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少と高齢化 ● 産業構造の大きな変化 ● 豪雨災害や感染症
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国水準を下回る労働生産性 ● 社会全体のダイバーシティに対する意識の乏しさ ● デジタル対応の遅れ

●九州のポテンシャル

先進国1カ国に匹敵する人口と経済規模	域内各地に中核市が配置された域内流動性の高さ
アジア諸地域に近い地理的優位性・緊密な関係の保有	ゼロエミッション電源導入の他地域に対する優位性
ものづくり産業(自動車や半導体など)成長の可能性	農林水産業や豊富な観光資源を活かしたサービス産業成長の可能性

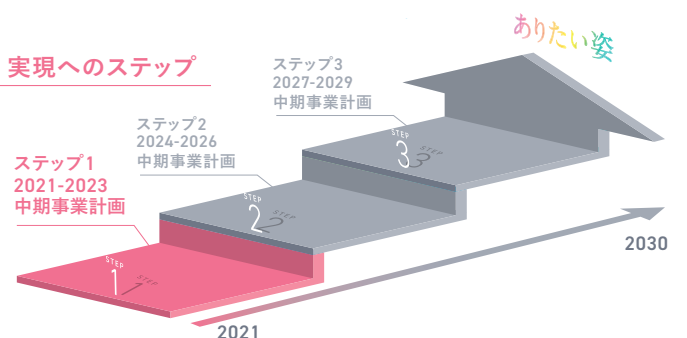
捉えなければならない時代の潮流

1 分散・多極化 集中から分散型社会へ	2 デジタル・DX データ駆動型社会へ	3 リスク対応 レジリエンス※、ESG投資	4 知識経済化 産学連携、オープンイノベーション、エコシステム構築、共創社会	5 ニューノーマル 新たな生活様式、働き方変革、新たなビジネス機会
----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	---	--

●「幸せコミュニティ」指標の目的

本指標は、「九州将来ビジョン2030」策定時に掲げた10の課題とそれを克服する35の具体的活動を遂行することで九州に住む人々が主観的にも客観的にも成長と心の豊かさをともに感じ、『共生・共感・共創アイランド九州』を実現するものである。

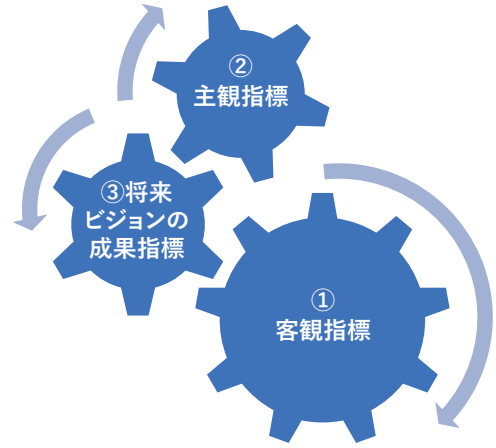
実現へのステップ



● 「幸せコミュニティ」指標の考え方

2つの指標（幸と福）からなる「幸せコミュニティ」指標

- ①一般的に「幸福感」の醸成につながるといわれている経済・社会・生活等の指標による**客観指標**。
- ②九州に暮らす人たちが抱く「幸福感」に関する**主観指標**。



③「九州将来ビジョン」を“この「ギャップ」を埋める取り組み”と捉え、同ビジョン実現の成果指標としても位置付ける。

幸：客観指標を中心とする（幸福の“幸”パート）

偶然による「しあわせ」、他力によって生み出された「幸(さいわい)」

福：主観指標からなる（幸福の“福”パート）

能動的な「しあわせ」、自力によって生み出された「福(さいわい)」

● 「幸せコミュニティ」指標の方向性

九州の①と②には大きな乖離がある。九州地域の人々は、他の地域より主観的に「幸せ」と感じている人が多いが、“客観指標”では全国的にも低位にある。(下表)

都道府県「幸福度」ランキング
2021【主観指標代表】

順位	前年	都道府県名	幸福度
1	2	沖縄県	78.1
2	1	宮崎県	73.0
3	9	熊本県	72.4
4	12	山梨県	72.1
5	22	愛媛県	71.8
6	38	岡山県	71.7
6	28	長崎県	71.7
8	30	北海道	71.4
9	7	京都府	71.3
9	3	大分県	71.3

満足度・生活の質を表す指標群(ダッシュボード)の九州地域の平均順位
(2017年から2021年までの単年又は平均値) 【客観指標代表】

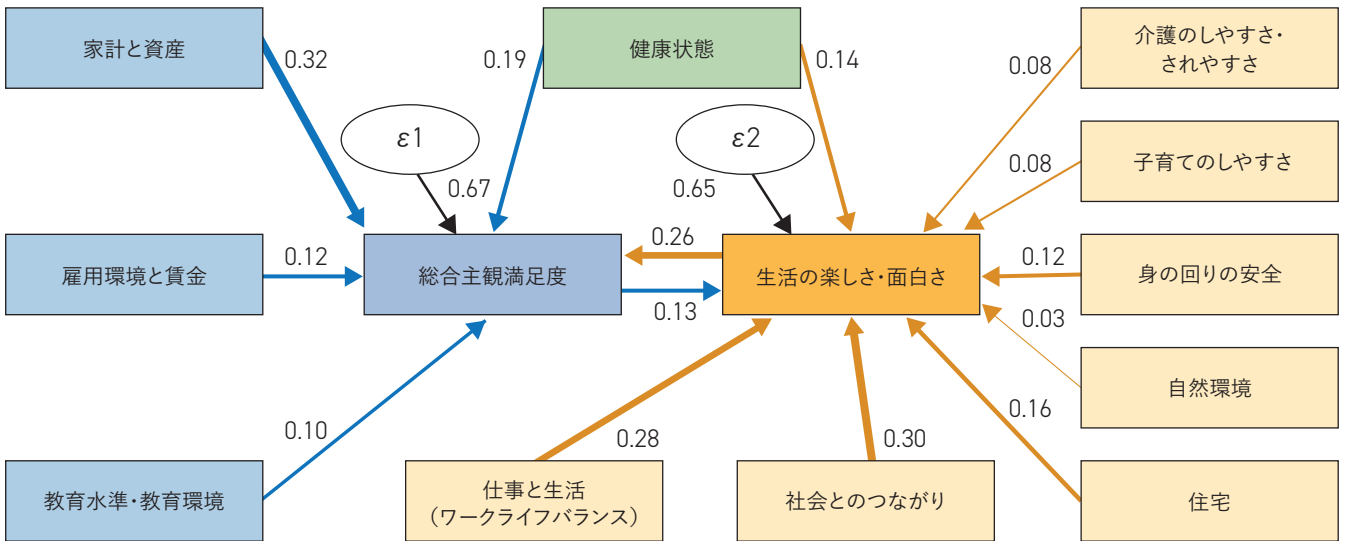
分野	指標	平均順位
家計と資産	可処分所得金額(1世帯当たり、年額)	39
	完全失業率	27
雇用と賃金	有効求人倍率	33
	所定内給与(1人当たり、月額)	36
	最低賃金額	36
	延床面積(1住宅当たり)	34
住宅	家賃地代(1世帯当たり、月額)	31
	持ち家住宅率	36
健康状態	平均寿命(男)	25
	平均寿命(女)	18
	健康寿命(男)	28
	健康寿命(女)	20
あなた自身の教育水準・教育環境	大学進学率	38
交友関係やコミュニティなど社会とのつながり	ボランティア行動者率(10歳以上)	16
	交際・付き合いの総平均時間(10歳以上)	16
生活を取り巻く空気や水などの自然環境	PM2.5の環境基準達成度(一般局)	23
	都市公園面積(1人当たり)	26
	森林率	30
身の回りの安全	刑法犯発生(認知)件数	18
	交通事故死亡者数	19
子育てのしやすさ	保育所持機児童数	22
	合計特殊出生率	8
介護のしやすさ・されやすさ	介護離職率	26

- 主観的な幸福感は客観的な指標に裏打ちされていないわけではない。したがって、高い“幸福”感の持続性を担保しうる基盤をつくり、“幸”と“福”のギャップを埋めていかなければならない。
- 「九州将来ビジョン2030」を実現することでこのギャップを埋めるという理解の下、同ビジョン実現に向けた10の課題、35の具体的活動とリンクさせ、同ビジョンの成果指標としても位置付ける。
- この指標で選定した指標の収集可能性・容易性・継続性や、他地域・県との比較可能性も検討した上で、世の中の変化の中で、九州の人々の「幸せ」を押し量り続け、新たな取り組みの「気づき」となるようにする。

①主観指標 (図1 総合主観満足度) は、どのような分野の客観指標とリンクしているか？

- 総合主観満足度に直接影響するのは、「家計と資産」「雇用環境と賃金」「教育水準・教育環境」の3分野。
- 「幸福感」の醸成には『生活の楽しさ・面白さ』が重要。『生活の楽しさ・面白さ』を規定するのは、「仕事と生活(ワークライフバランス)」や「社会とのつながり」。
- 「幸福感」と「政治・行政・裁判所への信頼性」との相関関係はなし。

【図1 総合主観満足度】



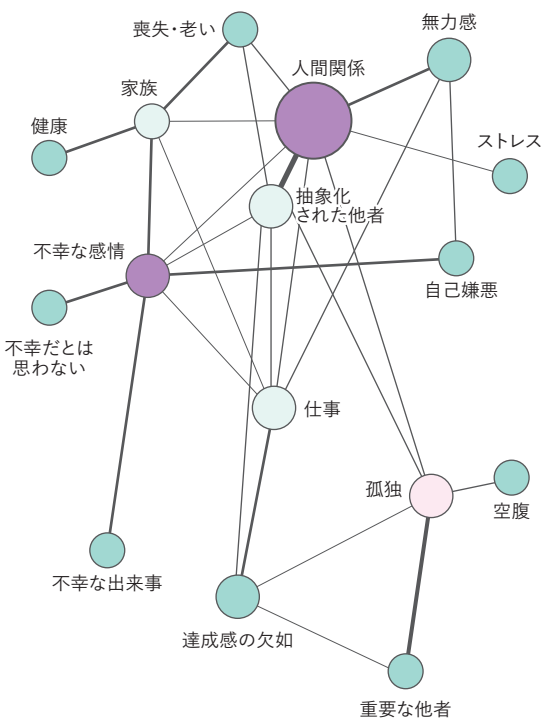
※数字はパス係数。1%水準で有意かつ正符号を満たすもの。εは誤差。 ※R²は総合主観満足度が0.33、楽しさ・面白さが0.35。

家計・資産、雇用・賃金および社会とのつながりや仕事と生活は必須。その他生活環境の指標も必要

②「幸福」の対極にある「不幸」という感情を生む要素はなにか？その要素が小さければ「幸福」が醸成されうるのではないか？

- 不幸という感情は人間関係と密接な関係(図2 不幸を感じる時)。
- とくに職場での他者との人間関係が、ストレスとなり無力感を生み、不幸な感情を想起させるとみることができる。

【図2 不幸を感じる時】



家族	同居している人、動物。別居している血縁者
重要な他者	親密な関係にある他者、特別な意味を持つ他者
抽象化された他者	特定の関係性や特定の人物が示されない他者
仕事	仕事や勉強、義務的に行うもの
人間関係	悪い人間関係、他者からの否定的評価
達成感の欠如	自分が行うことが達成できない、結果が出ない(アウトカムの重視)
不幸な感情	否定的な感情を抱いている状態
不幸な出来事	自分や他者に不幸な出来事が起きること
無力感	自分の有能性が不足するためにうまくいかない(能力の重視)
自由の欠如	自由・自律的になれない、あるいはその時間がない
孤独	他者との関係性が存在しない、あるいは剥奪されている
喪失・古い	健康や若さ体力を失う、あるいは他者を失う
経済的問題	経済的な困窮、圧迫など

職場での人間関係の良し悪しを示す指標の必要性

● 「幸せコミュニティ」指標と「九州将来ビジョン2030」との関連性

● 「九州将来ビジョン2030」実現に向けた

10の課題と具体的活動



課題
1

経済・産業	育児
雇用	住宅
自然環境	デジタル化

日本を動かすリーディング産業の育成・誘致 ①

将来の九州経済を活性化し、GDPの引き上げや所得水準の向上、さらに雇用拡大を図るため、九州の優位性ある資源やデジタル技術を活かして新たな基幹産業を創出する。

- 具体的活動
- 1 九州の強みを活かした農林水産業・観光産業の活性化
 - 2 次世代リーディング産業誘致・産業活性化(航空・宇宙、バイオ、医療・医薬、素材、エネルギー等)
 - 3 “グローバル”産業の育成(ローカル産業のグローバル化)
 - 4 DXによる産業構造の新構築・最適化(フィジカル&サイバー2階建て産業構造の構築)
 - 5 産業の価値創出・生産性向上(生産性革命)



課題
2

経済・産業	自然環境
安心・安全	

カーボンニュートラルを先導するエネルギー環境の整備 ① ② ③

持続可能な世界屈指のクリーンエネルギー九州を実現するため、再生可能エネルギーの有効活用やそれに資する資金調達などの体制を整備し需要側を含めた環境先進モデルを構築して経済成長に寄与する。

- 具体的活動
- 6 水素、電化、メタネーションガス社会への転換
 - 7 エネルギーの「S+3E」*を前提としたエネルギーミックス(再エネの主力電源化・原子力の着実な運用)の追求
 - 8 脱炭素社会の実現に向けた革新的技術の開発・導入活用
 - 9 分散型エネルギー需給モデルの構築
 - 10 ESG投資・グリーン調達拡大に向けた環境整備
- *S+3E:安全性、エネルギー自給率、経済効率性、環境適合



課題
3

経済・産業	教育
雇用	自然環境

生産性向上と新たな価値を生み出す九州イノベーションエコシステムの構築 ① ②

絶え間なくイノベーションを生み出し、持続的な産業の活性化を図るため、事業会社とベンチャーによる価値共創、産学の融合等により、域内で自律的かつ連続的にイノベーションが生み出されるシステムを構築する。

- 具体的活動
- 11 持続的な産業活性化に向けた産学連携
 - 12 企業内ベンチャー・企業間連携イノベーションの創出を促す環境の整備
 - 13 エコシステムの中核となる企業・産業・研究所・大学の集積



課題
4

経済・産業	交通・移動
デジタル化	

地理的優位性を活かしたアジアとのシームレス化 ① ②

日本の中でアジア諸地域に最も近い九州がビジネスの最適地として世界から選ばれるため、海外とのヒト・モノ・カネ・情報の往来を活発化させるべく、魅力的な国際ビジネス環境の整備に取り組む。

- 具体的活動
- 14 アジア市場と自由にモノの往来ができるサプライチェーン構築
 - 15 魅力ある投資環境の整備(国際金融センターや外国企業の日本ランチ誘致等)
 - 16 アジア・世界とつながるデジタル環境の整備



課題
5

雇用	教育
----	----

新たな時代を担う教育・人材育成 ① ②

デジタル化やグローバル化が加速する中で、IT人材、グローバル人材を確保するため、国際競争力ある人材育成メニューの充実や、その人材を受け止める組織インフラ・制度の整備に取り組む。

- 具体的活動
- 17 世界中の優秀な人材の集積地化に向けた教育機関の整備
 - 18 次世代や世界で通用する人材を育てる教育プログラムの構築(グローバル・STEAM・ICT・社会課題解決などの人材育成、リカレント教育推進)
 - 19 多様な人材の成長を促す人材流動化

ありたい姿

- Ⅰ … 新たな時代の成長エンジン
- Ⅱ … 心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ
- Ⅲ … 自立型広域連携アイランド

課題

6



健康

住宅

交通・移動

デジタル化

ワークライフバランス

暮らしやすさ(Quality of Life)と新たな価値の創出

Ⅰ Ⅱ

地域の資産(自然や文化など)の恩恵を享受しつつ、イノベーションによって各人が求める働き方や生き方が実現できる地域モデルを創る。

- 具体的活動
- 20 医療および福祉環境の充実(ヘルステック推進等)
 - 21 MaaSによる地域交通網の最適化
 - 22 自然環境・文化・歴史的価値向上と伝統継承
 - 23 デジタルを活用した働き方のニューノーマル化(リモートワーク、コワーキング、ワーケーション)

課題

7



雇用

育児

社会的つながり

地域福祉

ワークライフバランス

共助社会を実現するダイバーシティ・インクルージョンコミュニティ形成

Ⅱ

誰もが属性に捉われずチャレンジして活躍できる社会を目指し、多様な価値観を認め、各人の強みを活かし共助共生しながらともに成長できるコミュニティを形成する。

- 具体的活動
- 24 誰もが可能性を最大限発揮できる風土醸成と社会システムの構築(ダイバーシティ経営の推進、次世代層・女性のエンパワーメント等)
 - 25 あらゆる人々の多様性が受容される基礎インフラの整備
 - 26 社会的課題を地域のつながりで解決する(共助)コミュニティの構築
 - 27 外国人との共生に向けたグローバル化

課題

8



交通・移動

デジタル化

「成長エンジン」と「幸せコミュニティ」を支えるインフラ整備

Ⅲ

バランス良く配置された九州の各都市の経済・生活機能が効率的かつ最大限に発揮できるよう、地域間連携に資するICT基盤や産学官民連携したデータ流通の促進および交通インフラの整備に取り組む。

- 具体的活動
- 28 データ駆動型社会の基盤整備
 - 29 域内港湾の一括管理による運営効率化
 - 30 九州一体となった空港施策の実現を可能にするためのプラットフォームの設置と国際金融都市に相応しい国際路線の充実
 - 31 高規格幹線道路網の整備促進と下関北九州道路の事業化

課題

9



交通・移動

デジタル化

分散型社会の一翼を担う自立型広域経済圏モデルの構築

Ⅲ

人口減少、高齢化が加速している中でも地域経済・コミュニティを維持できるよう、強みである広域連携力を活かして、9県が自立しつつも一体となって地域活性化に取り組む連携モデルを構築する。

- 具体的活動
- 32 分散型社会の実現に不可欠な広域行政の枠組み構築
 - 33 各地域の強みを活かした多様なビジネス環境の整備

課題

10



安心・安全

デジタル化

安心・安全を確保する防災レジリエンス・バックアップ機能強化

Ⅲ

異常気象や巨大地震発生などのリスクが年々高まる中、住民が安心して生活できるよう防災レジリエンス(予測力・予防力・対応力)を高めるとともに、首都圏での災害発生時のバックアップ機能構築にも取り組む。

- 具体的活動
- 34 強靱な防災・減災・感染症対策機能を有する地域の実現と国家バックアップ機能の構築(住民の安心・安全)
 - 35 デジタルガバメントモデル構築

● (幸福の“幸”パート) 【客観指標】

分野	将来ビジョン	指標・系列	主な取り組み(例示)	SDGsとの関連性			
経済・産業	課題1・2・3	都道府県別の物価水準の価格差でデフレートした可処分所得金額	左記の13分野25の指標・系列を向上するために実施する取り組み事例 ◇企業の持続的成長 →人的資本への還元 →雇用ギャップ解消 ◇DX・GX推進による企業変革力 (ダイナミック・ケイパビリティ)の構築 ◇CN推進による温暖化対策 ◇枯渇資源保護の為の代替エネルギーの転換・創出 ◇新たな働き方の創出 ◇健康経営優良法人への取り組み →データヘルス・セルフメディテーション ◇子育て制度(育休など)支援 ◇女性(特に25~44歳)の就業率アップ ◇住民の生活におけるエクイティ土台づくり ◇産学官金による教育支援 ◇社会価値の創出と発展への貢献 (社会貢献) ◇人間関係の希薄化解消 →地域コミュニティとの連携・関係構築 →相互に幸せを享受できるコミュニティ構築 ◇域外住民も含めた住民の域内・国外への交通網最適化 →国外・域内でのMaaSによる利便性向上 ◇多様な人材が持続的に活躍できる環境づくり ◇ワークライフバランス実現の環境づくり ◇DX推進による ・地域間“コネクティブ”構築 ・防災、減災、予防策の構築 ・アジア・世界との情報連携網構築	Goal 1・8・9・10・17			
	課題1・2・3	金融資産残高		Goal 1・8・10			
	課題3・4	“起業”したいと考える人の割合		Goal 3			
雇用	課題1・3・5・7	長期失業率(1年以上)		Goal 4・5・8			
健康	課題6	健康寿命		Goal 11			
	課題6	1人当たり医療費		Goal 4・8・12			
育児	課題7	保育所待機児童数		九経連の重要な事業の一つである「要望・提言」活動の成果と住民の“移動”の利便性をリンクさせる指標として、類似幸福度指標にない(交通・移動)分野を設定	Goal 16・17		
	課題1・7	子どもあり世帯共稼ぎ率			Goal 1・4・11・13・16		
住宅	課題6	世帯人員当たり住宅面積			Goal 9・11		
	課題1	実収入に占める月間住宅費比率			Goal 11・13・14・15		
教育	課題3・5	大学進学率			Goal 3・4・5・8・10・16		
	課題7	ボランティア行動者率			Goal 10・11・17		
社会的つながり	課題7	消費支出に占める交際費比率			◇域外住民も含めた住民の域内・国外への交通網最適化 →国外・域内でのMaaSによる利便性向上 ◇多様な人材が持続的に活躍できる環境づくり ◇ワークライフバランス実現の環境づくり ◇DX推進による ・地域間“コネクティブ”構築 ・防災、減災、予防策の構築 ・アジア・世界との情報連携網構築	Goal 16・17	
	課題7	友人等との交流頻度×頼りになる人の数	Goal 1・4・11・13・16				
	課題7	SNS利用頻度	Goal 9・11				
	地域福祉	課題7	65歳以上の友人等との交流頻度×頼りになる人の数			Goal 11・13・14・15	
安心・安全	課題2・10	自然災害による被害総額	◇域外住民も含めた住民の域内・国外への交通網最適化 →国外・域内でのMaaSによる利便性向上 ◇多様な人材が持続的に活躍できる環境づくり ◇ワークライフバランス実現の環境づくり ◇DX推進による ・地域間“コネクティブ”構築 ・防災、減災、予防策の構築 ・アジア・世界との情報連携網構築			Goal 1・4・11・13・16	
	課題10	刑法犯発生件数				Goal 9・11	
交通・移動	課題6・8・9	各地域ブロック拠点都市から2時間到達圏面積割合				◇域外住民も含めた住民の域内・国外への交通網最適化 →国外・域内でのMaaSによる利便性向上 ◇多様な人材が持続的に活躍できる環境づくり ◇ワークライフバランス実現の環境づくり ◇DX推進による ・地域間“コネクティブ”構築 ・防災、減災、予防策の構築 ・アジア・世界との情報連携網構築	Goal 9・11
	課題4・8	国際航空路線×便数		Goal 11・13・14・15			
自然環境	課題1・2・3	平均気温の変動(小さければ+)		Goal 3・4・5・8・10・16			
ワークライフバランス・インクルーシブ	課題6	総合相談件数/雇用者数の対全国比+助言・指導申し出件数/雇用者数の対全国比+あっせん申請件数/雇用者数の対全国比		◇域外住民も含めた住民の域内・国外への交通網最適化 →国外・域内でのMaaSによる利便性向上 ◇多様な人材が持続的に活躍できる環境づくり ◇ワークライフバランス実現の環境づくり ◇DX推進による ・地域間“コネクティブ”構築 ・防災、減災、予防策の構築 ・アジア・世界との情報連携網構築			Goal 1・4・9・10・11・17
	課題6	平均通勤時間+残業時間+就業時間(≒仕事による拘束時間)に対する時間当たり雇用報酬(≒時間当たり労働生産性)					Goal 1・4・9・10・11・17
	課題7	地域別GGIの絶対値の平均(ジェンダーギャップ率)					Goal 1・4・9・10・11・17
デジタル化	課題1・4・6・8・9・10	都道府県別デジタル・ケイパビリティ・インデックス					Goal 1・4・9・10・11・17

・不幸である理由「人間関係」「無力感」
 ・企業(に働く人の幸福感)「ワークライフバランス」より指標追加

● (幸福の“福”パート) 【主観指標】

ブランド総合研究所「都道府県「幸福度」ランキング」2021

順位	前年順位	都道府県	幸福度	順位	前年順位	都道府県	幸福度	順位	前年順位	都道府県	幸福度
1	2	沖縄県	78.1	15	13	高知県	70.2	32	30	徳島県	68.0
2	1	宮崎県	73.0	18	10	香川県	70.0	34	26	群馬県	67.7
3	9	熊本県	72.4	18	4	福井県	70.0	34	40	山形県	67.7
4	12	山梨県	72.1	20	6	鳥取県	69.7	34	35	大阪府	67.7
5	22	愛媛県	71.8	21	26	栃木県	69.5	37	8	富山県	67.1
6	38	岡山県	71.7	22	15	滋賀県	69.3	38	43	新潟県	66.9
6	28	長崎県	71.7	23	18	島根県	69.2	39	30	茨城県	66.6
8	30	北海道	71.4	24	16	岐阜県	69.1	40	47	秋田県	66.5
9	7	京都府	71.3	24	16	兵庫県	69.1	41	29	埼玉県	66.2
9	3	大分県	71.3	24	37	愛知県	69.1	41	24	岩手県	66.2
11	36	三重県	71.2	27	19	和歌山県	69.0	43	44	青森県	66.1
12	13	福岡県	71.1	28	22	広島県	68.8	44	45	福島県	65.6
13	21	奈良県	70.9	28	46	佐賀県	68.8	45	25	東京都	65.0
14	20	長野県	70.7	30	42	千葉県	68.5	46	33	神奈川県	64.6
15	10	鹿児島県	70.2	31	33	静岡県	68.4	46	41	山口県	64.6
15	5	石川県	70.2	32	38	宮城県	68.0				

● 最後に

本書で述べたように、「幸せ」「幸福」は、他者から与えられる「幸」と自ら感じる「福」の二つの要素から成り立っています。「幸」は客観的に測ることができるものの、その状態は長く続くものではありません。そして、「福」は主観的なもので、自ら感じることで長くその状態が持続するものといえましょう。

ベストセラー『データの見えざる手』『「データの見えざる手」がオフィスの生産性を高める』『予測不能の時代：データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』の著者 矢野和男氏は、人間にとって最上位の価値は「Happiness=幸せ」であると認識の下、人間の行動からHappinessを定量化され、人間の幸せな行動も相互作用から起こるとされています。

私たちが「九州将来ビジョン2030」に掲げた10の課題を解決し、35の具体的活動を実行することで関連する客観的指標の数値が上がり、地域の特徴である主観的にも幸せと感じる人が多い現状に限りなく近づく。さらに主観と客観の両指標がともに上がることで、真に「幸せ」と感じる人が増え、さらにそれらの人々が職場や地域コミュニティにおいて周りの人々へ「幸せ」を波及させていく。その際、先に公表したKGGI(九州ジェンダーギャップ指数)が示す男女間の差も限りなく無くなり、老若男女こぞって真に幸せを実感できる九州。

このような好循環を生む原動力となって、当地域が「Happiness=幸せ」を共有し、真に『共生・共感・共創アイランド九州』『幸せコミュニティ九州』となるよう、九州経済連合会では九州将来ビジョンに掲げる10の課題と35の具体的活動を展開してまいります。加えて、3年毎に策定いたします中期事業計画の最終年度には主観・客観両方の指標を公表し、「幸せコミュニティ」の進捗状況を皆様にお伝えいたします。

【引用文献・資料】

- ・ブランド総合研究所 都道府県「幸福度」ランキング2021
- ・内閣府政策統括官「満足度・生活の質に関する調査」に関する第4次報告書～生活満足度・暮らしのレポート～(生活満足度の観点から経済社会構造を「見える化」する)内閣府 満足度・生活の質に関する調査報告書
- ・京都大学グローバル COE「心が活きる教育のための国際的拠点」(平成19年～23年度)による「幸福感の国際比較研究」における自由記述部分の質的分析の報告 京都大学 幸福感国際比較研究報告書 (A cross national study on happiness)



〒810-0004

福岡市中央区渡辺通2丁目1-82(電気ビル共創館6階)

TEL 092-761-4261 FAX 092-724-2102

E-Mail info@kyukeiren.or.jp

